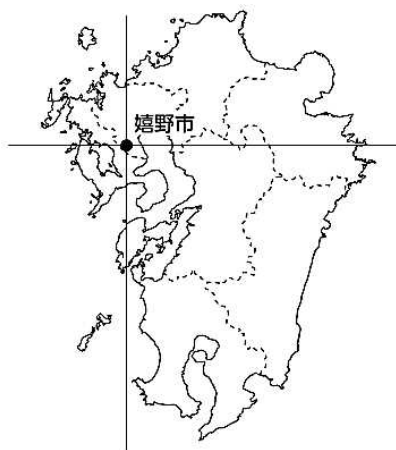


うれしのし
嬉野市の日本語教育の取り組み
～「カフェこくさいじん」～

佐賀県 嬉野市
産業振興部 観光商工課
主事 笠原 千佳(かさはら ちか)



嬉野市の概要



面積:126.41km² (H30.1.1 現在)
人口:26,504人 (H30.3.31現在)

平成18年1月1日、観光を主産業とする嬉野町と、
農業を主産業とする塩田町とで二町合併し、
嬉野市(うれしのし) が誕生

1. 在住外国人の状況

嬉野市の外国人住民数・・・**161人** 市人口の**0.61%**
(平成30年1月1日時点)

- 嬉野市の訪日観光客数の国別ランキングは
1位...韓国(75.0%) 2位...台湾(11.0%) 3位...中国(6.7%)
- **嬉野町**にある“日本三大美肌の湯”嬉野温泉の旅館では上記の国の出身者が「国際業務」に携わっている
- 農業が主産業で、且つ工業団地を有する**塩田町**にはフィリピン・ベトナム・ミャンマーからの「技能実習生」が多く居住している
- 主な在留資格の割合は、「技能実習」30.4%、「技術・人文知識・国際業務」19.6%、「永住者」16.5%

国籍	人口(人)
韓国または朝鮮	53
フィリピン	28
ベトナム	23
中国	21
ミャンマー	16
インドネシア	3
ネパール	3
モンゴル	2
タイ	1
マレーシア	1
オーストラリア	1
英国	1
スロベニア	1
アメリカ	5
ブラジル	1
エクアドル	1
合計	161

H30.1.1時点の嬉野市在留外国人数
(佐賀県, 2019)

2. 「地域日本語教育SP」の取り組み

以前

「嬉野市には外国人なんてほとんどいない」

- 中国からの技能実習生に対し、日中友好協会が懇親会を開くなどの交流を行っていたが、日本語教育は継続して実施されなかった
- その後中国の経済成長に伴い、中国からの技能実習生がほとんどいなくなったことに加え、世話人の高齢化から日中友好協会は解散した
- 観光客は日本人がほとんど、外国人観光客はごくわずかであった

平成25年ごろ～

「あれ？外国人をよく見るようになってきたぞ...」

- 中国人技能実習生に変わる労働力として、フィリピン・ベトナム・ミャンマー等からの技能実習生が徐々に増え始める(各事業所毎に雇用)
- 当市には“国際交流協会”はなく、日中友好協会に変わる団体はなかった
- 外国人観光客が急激に増え始め、旅館ではフロント係として外国人を雇うように

2. 「地域日本語教育SP」の取り組み

平成29年度(1年目)

「観光客じゃない外国人もいるみたい...」

- 「生活者としての外国人のための日本語教育事業 地域日本語教育スタートアッププログラム」に応募し、採択される
- 観光客としての外国人の受入体制 ... ○ 徐々に整ってきた
生活者としての外国人の受入体制 ... × 市民としての情報発信は不十分
- 特に災害時における在住外国人の避難体制確立は喫緊の課題
- 1年目は主にヒアリング調査(10名)、ローカルミーティング(3回)、日本語教室の試行(6回)、佐賀県国際課・(公財)佐賀県国際交流協会と共催で多文化共生講座を実施

《反省》

- どのような日本語教室にしたいか(目標)はローカルミーティングによって明確にすることができたが、日本人・外国人共に参加者の掘り起こしは不十分だった
- 担当職員とコーディネーター間で上手く連携が取れなかった

2. 「地域日本語教育SP」の取り組み

平成30年度(2年目)

「とにかく、やってみよう！」

- 定例化し、告知しなければ参加者を勧誘できない
→「カフェこくさいじん」(日本語教室)を月2回実施することに (毎月第2・4水曜夜)
- 情報発信の強化...Facebookページの立ち上げ、市報での告知を行なう
「カフェこくさいじん」FBページ→
(左:H30年度、右:2019年度～)
- 担当職員を2名体制にし、申請関係・市内企業担当と教室運営担当で業務を分担
- 市内のイベントに参加することで露出を増やし、市民を講師に迎えるなどして関係各所を巻き込み、「カフェこくさいじん」と在住外国人の存在について周知を図る
- 企業回りを強化、外国人従業員だけでなく雇用主へのヒアリングも実施



4月	・ ローカルミーティング開催 ・ コーディネーター会議 ・ カフェこくさいじん開催
5月	・ カフェこくさいじん開催(ホテル観賞会)
6月	・ コーディネーター会議開催 ・ カフェこくさいじん開催(浴衣の着付け・うれしカーニバル道踊り(市イベント)練習) ・ 市報による情報発信
7月	・ コーディネーター会議 ・ カフェこくさいじん開催(七夕飾り体験) ・ 嬉野温泉街土曜夜市(市イベント)に参加
8月	・ コーディネーター会議開催 ・ カフェこくさいじん開催 ・ うれしカーニバル道踊りに参加 ・ 市報による情報発信
9月	・ にほんごサポーター説明会 ・ カフェこくさいじん開催 ・ アドバイザー会議開催 ・ 市報による情報発信
10月	・ にほんごサポーター説明会 ・ 視察研修(佐賀県鳥栖市日本語教室とりんす) ・ カフェこくさいじん開催(秋まつり(市イベント)道踊り練習) ・ 市内在住外国人ヒヤリング調査実施 ・ 市報による情報発信 ・ 「ほっとステーション(市の政策番組)」のテレビ放映

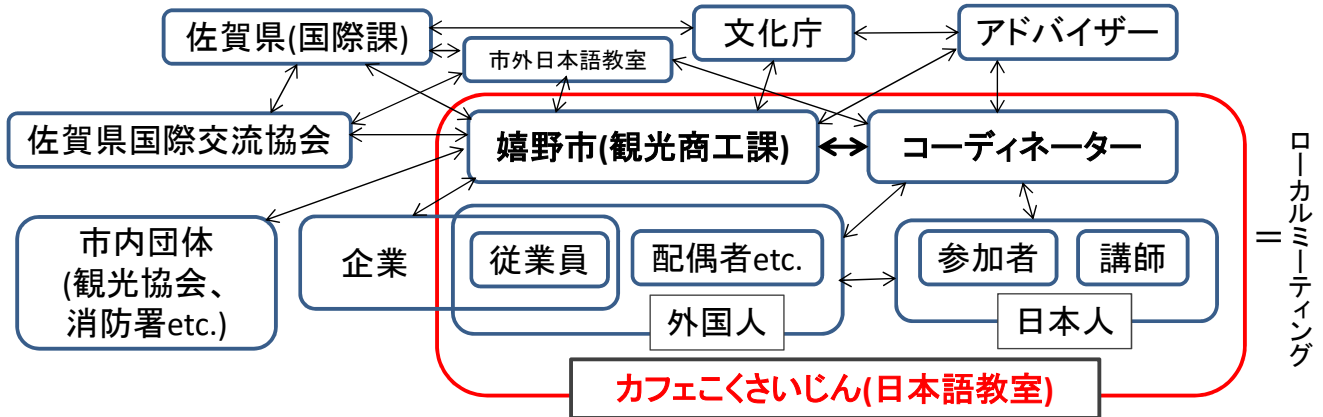


11月	・ コーディネーター会議開催 ・ カフェこくさいじん開催(ふれあい人権フェスタ準備) ・ 秋まつり道踊りに参加 ・ アドバイザー会議開催 ・ 市報による情報発信 ・ 「ほっとステーション(市の政策番組)」のテレビ放映
12月	・ カフェこくさいじん開催(救急救命士を招いて応急手当の講習) ・ ふれあい人権フェスタにブース出展 ・ クリスマスパティー(地域イベント)に参加 ・ 市内在住外国人ヒヤリング調査実施 ・ 市報による情報発信
1月	・ コーディネーター会議開催 ・ カフェこくさいじん開催(新年会) ・ 武雄国際交流フェスティバルに参加(佐賀県武雄市) ・ 視察研修(佐賀県基山町の日本語教室あみーご) ・ 市報による情報発信 ・ 「ほっとステーション(市の政策番組)」のテレビ放映
2月	・ コーディネーター会議開催 ・ カフェこくさいじん開催 ・ アドバイザー会議開催 ・ 嬉野デザインウィーク忍者パフォーマンス(市イベント)に参加 ・ 市報による情報発信 ・ 「ほっとステーション(市の政策番組)」のテレビ放映
3月	・ コーディネーター会議開催 ・ カフェこくさいじん開催 ・ カフェこくさいじんIN塩田開催 ・ 九州オルレフェア(トレッキングイベント)に参加 ・ 市報による情報発信



3. 地域日本語教育における県・市町及び 関係団体の役割分担

- コーディネーターの動き(3名)
ニーズ調査(4H) 体制整備のための調整(29.5H) 人材育成のための調整(9H)
日本語教室開設及び運営のための調整(110.5H) 教材作成に向けた調整(68.5H)
その他[地域視察・イベント](24.5H)
- アドバイザーの助言
「メニューを入れすぎず、長いスパンでゆっくりと」「フリートークの時間を設ける」
「一方的にお膳立てせず、参加者みんなで楽しい雰囲気を作り上げるべき」
「技能実習生等を受入れる側の理解や意識改革のため企業への説明会も必要」



4. 今後の課題(地域の課題)と展望

① コーディネーター育成

現在、コーディネーター1名+職員で「カフェこくさいじん」(日本語教室)を運営
「一参加者として関わりたいが、コーディネーターは荷が重い」との声が...

→コーディネーターがフォローするかたちで参加者にお試し講師役を担ってもらう

② 地域格差の解消を目指す

昨年度の「カフェこくさいじん」(日本語教室)はほとんどが嬉野町のみで実施
嬉野町と塩田町は車で約20分の距離にあり、塩田町の住民は参加困難であった

→塩田町での日本語教室試行を開始(3ヶ月に1回)、塩田町の人材発掘にも着手

③ 行政内の連携強化

県内の国際関係団体、市内の各種団体との連携は取れつつあるが、
外国人住民との関わりが深い市民課等、行政内の各課連携が不十分である

→「カフェこくさいじん」の講師として、各課の職員に参加依頼を行なう

④ 来年度以降の運営体制について

→SP終了後も安定した教室運営ができるよう、来年度以降の運営体制を明確にする